

2016 年の始まりに寄せて

園長 横尾 尚子

2016 年の干支はサル。漢字では「申」と書きますが、なぜ「猿」とは書かないのでしょうか？

干支の十二支は、かつて中国で農作業を行う際の暦として使われたものが、日本に伝わった時に、一般庶民にもわかり易いようにと動物が当てられたものだとも言われています。その折に、「申(シ)」という干支に対して、動物の猿が当てられたために、読み方も「申(サル)」となって今に伝わっているようです。

「申」は、稲妻を表す象形文字で、稲妻が天の神が発するものであることから、「神」の字のもとになり、神の技という意味もあるそうです。また、人間に似ている猿の方も、古代エジプトや中国など世界各地で神聖なもの、神秘的なものと考えられ、崇められてきました。さらに「申」は「去る」に通じるため、災難や厄が去るとも信じられ縁起が良いようです。12 で必ず割り切れる申年、神様のご加護をたっぷり受けながら、日々幸せに過ごしたいものです。

ところで、子ども達にとっては、お正月と言えば「お年玉」ではないでしょうか。お正月は「年神様(トシガミヤ)」を迎え入れてお祝いする月です。そして、たくさんの幸せを授けてもらえるようにと、様々なお正月行事や風習が生まれました。家長は、わが家に迎え入れた「年神様」にお供え物をして、家族の無病息災を祈りました。この時のお供え物としてお餅が備えられ、神の御魂(=神力)が込められた物として分け与えられたことから、「年神様の魂(トシガミヤノタマシイ)」⇒「年魂(トシタマ)」⇒「年玉(トシガマ)」「お年玉」となって広まったようです。現在ではお餅ではなく、現金を渡すことが一般的ですが、私は小学 5 年生のお正月に叔父さんからもらった「てんとう虫の形をしたホッチキス」がとっても嬉しくて、大学生まで使っていました。お金ではないお年玉も、いいものですよ。

さあ、新しい一年の始まりです。お子さんとご一緒に、思い出のいっぱい詰まった幸せな一年をお過ごしください。

